

明るい子 かしこい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和4年度 11月号

蕨市中央6-8-25

Tel 442-2672

児童数	(名)
男 子	206
女 子	173
計	379

読書の秋～今だから味わえる感動を～

校長 原田 卓治

去る10月1日(土)の第69回運動会の開催に際し、保護者等の皆様にご声援を頂き、誠にありがとうございました。ご家族の方々を目の前にして、子供たちは練習以上の成果を発表できたと思います。どのクラスも大変満足気な子供たちの姿がありました。

さて、秋も深まりを増し、読書の秋の到来といったところでしょうか。本校でも、1年生から3年生までは、目標50冊、4年生以上は目標5,000ページとし、読書活動に力を入れています。今月、各学年の目標達成者を校長室で表彰いたしました。引き続き、他の児童も今回表彰された児童も読書に励んでもらいたいと思います。

私が子供たちに読書を推奨している理由の1つは、お茶の水女子大学の数学教授でいらした「藤原正彦」先生が雑誌に書かれた記事を読んだからです。ご存じの方も多いと思いますが、藤原先生の父は「新田次郎」さん、母は「藤原てい」さんというご両親が一流作家という家庭環境でお育ちになりました。ですから、藤原先生は数学者であるとともに、エッセイストとしても有名です。

ある時、藤原先生は子供のころ大変感動し、涙が止まらなかった物語を偶然手にし、大人になって読んだそうです。ところが、あの子供のころに体験した感動が沸き上がってこない。涙も流れない。あの頃に味わった素晴らしい体験はどうしてしまったのか。さて、これは一体何を意味するのでしょうか。

つまるところ、「同じ物語でもそれを読む年齢によって、感じるものが異なるという現実がある」ということなのだと思います。当たり前と言えば当たり前です。しかしながら、この逸話は、「読書には旬がある」ということを感じずにはられません。もし、小学生であったなら感動を味わえたであろうある文学を、大人になって初めて読んで、その感動を味わえないとしたら、こんなにもったいないことはありません。

きっと、小学生の時にしか味わえない感動をもたらす一冊があるのではないか。それに出会えるのは今しかないのではないか。

ですから、私は、是非この時期だからこそ味わえる感動に触れて欲しいと強く思うようになったのです。

是非、小学生の今だからこそ味わえる、感動を生む一冊に出会って欲しいと願っています。

※去る10月19日に撮影した軍手ダンスの練習風景です。

(別途通信料がかかります。)

